

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

• •

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	夜間消火活動におけるホース展張中の事故。
3. 体験した事例の中心的要素	現場経験の浅い若い隊員が夜間周囲を確認せずホース展張しようとして側溝に落ち足を負傷する。
4. 体験した事例の原因・理由	夜間にもかかわらず、携帯照明（ヘッドライト等）を携行していなかつたため。 現場状況等（道路等）を十分に確認せず火点に向かってしまった。 危険予知不測。

【体験した事例の直接的原因について】

• •

1. 体験した事例の直接的な原因

【体験した事例について】

• •

1. 発生日時	平成 20 年 4 月 10 日 午後 8 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	墜落・転落、
7. 事例体験時の活動	火災現場活動初期、 [木造建物]
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[24]歳、 勤続年数[2]年、 現場経験年数[1] 年、 階級[消防士]、 同様の活動 [過去に 1,2 回程]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

1.1. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1			
経過 2			
経過 3			
経過 4			
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 solid black circular dots, evenly spaced from left to right.

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。危険事象の対応方法を知らなかつた。個人装備が不適切だつた。周囲の視界が確保できていなかつた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 はい
 - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 はい
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 いいえ

b 注意力が欠如していた

- | | |
|----------------------------------|-----|
| ・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 | はい |
| ・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |
| ・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 | いいえ |

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	
・必要とする装備・資機材がなかった。	

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	
・指示内容に誤り・偏りがあった。	
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	
・隊員が不足していた。	

○その他

l. その他の理由があつた。

--

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

火災時には早く消火活動をしたいという焦りではなく、正確且つ迅速な活動を意識付ける。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

夜間における携帯照明の充実。

○指揮・情報伝達の対策について